

甲状腺癌肺転移に対する放射性ヨウ素内用療法 (アイソトープ治療, ^{131}I 治療)を受けた患者さんへ 研究協力のお願について

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の相談窓口へお問い合わせ下さい。ご連絡がない場合においては、ご了承をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この研究は、倫理審査委員会の審査を受け、研究責任者の所属機関の長の承認を得て行っているものです。

1. 研究の対象

2010年1月～2015年12月に当院で放射性ヨウ素内用療法を受けた甲状腺癌患者の方。

2. 研究の概要

研究課題名 分化型甲状腺癌に対する放射性ヨウ素内用療法における効果的・効率的治療法の開発
研究期間 承認日 ～ 2026年 3月31日
目標数 100例

放射性ヨウ素(^{131}I)内用療法は、分化型甲状腺癌の再発リスクの高い方や遠隔転移を有する方に対しておこなわれる標準治療です。内服した ^{131}I が病変に集まることで癌細胞に放射線が照射され治療効果を発揮します。治療のため、前処置として甲状腺ホルモン剤の休薬もしくは遺伝子組換えヒト型甲状腺刺激ホルモン製剤(rhTSH)の使用が必要になります。

甲状腺ホルモン剤を休薬された方は、甲状腺機能低下のため、腎機能低下などの症状を来します。この研究では、甲状腺ホルモン剤を休薬された方とrhTSHを使用された方の、これまでのデータを集約・比較し、副作用の発現や ^{131}I の体内からの排泄される日数との関連を調べます。

3. 研究の目的・方法について

この研究では、甲状腺ホルモン剤の休薬と放射性ヨウ素内用療法の副作用や ^{131}I の体内からの排泄との関連を調べることを目的としています。

放射性ヨウ素内用療法を受けた患者さんの画像や治療の記録を使い、必要なデータを取りまとめ、治療の副作用や ^{131}I の排泄遅延に影響を与える因子があるか検討します。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

診療の際に得た情報を使用します。

情報：性別、治療時の年齢、病歴(治療後の経過を含む)、画像情報

5. 外部への試料・情報の提供・公表

提供された情報を外部へ提供することはありませんが、この研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがあります。

6. プライバシーの保護について

この研究で得られた結果は学会や医学雑誌等に発表されることがあります。このような場合、あなたの個人情報などのプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。

7. 研究組織

- (1) 金沢大学における研究実施体制
研究責任者 附属病院核医学診療科 山瀬 喬史
- (2) 共同研究機関と研究責任者
なし
- (3) 研究に関する業務の委託
なし

8. 本研究に係る資金ならびに利益相反について

この研究は、研究助成（課題番号：23K14861，課題名：分化型甲状腺癌に対する放射性ヨウ素内用療法における効果的・効率的治療法の開発）を得て実施するものです。また、この研究の研究担当者は、この研究において企業等との間に利害関係はありません。この研究の研究担当者は、金沢大学の規定に基づく利益相反審査機関へ自己申告し、その審査と承認を得ています。従って、この研究の研究担当者は、この研究の実施の際に個人的な利益のために専門的な判断を曲げるようなことは一切いたしません。また、学会発表は論文の公表にあたっては、資金について公表し研究の透明化を図ります。

9. 研究への不参加の自由について

試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、2026年3月31日までに下記の問い合わせ先までお申出ください。なお、研究結果が既に医学雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取り消すことは困難な場合もあります。

10. 研究に関する窓口

この研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

研究責任者 金沢大学附属病院核医学診療科 山瀬 喬史
相談窓口担当者 金沢大学附属病院核医学診療科 山瀬 喬史
住所 〒920-8641 金沢市宝町 13 番 1 号
電話 076-265-2333